

海外旅行の税金・諸費用について

アフターコロナとなり、海外渡航も堂々とできるようになってきました。私も久しぶりに海外旅行に行きたいと思い、某旅行会社のツアーに申し込みました。最終の請求書が届き、基本旅費以外に7行も明細があり、よく分からない内容もあったので、改めて調べてみようと思いました。(海外渡航を頻繁にされている方にとっては当たり前の常識かもしれませんが…)

まず、おなじみの海外旅行保険18,090円とありました。海外でけがや盗難にあった時のために、こちらは申し込みました。クレジットカードに付帯されているものの、保険の案内にそれだけではカバーできないということで加入しました。これは分かっていたので、違和感はありませんでした。

次に国内空港施設利用料2,460円とありました。旅客ターミナルビルにて旅行者が利用するロビー、昇降機設備を含む館内移動施設、フライト情報システムなど、様々な施設の維持管理、手荷物カートやお客案内などサービスの提供に充てるための料金です。成田空港では2,460円とありました。また、国内空港旅客保安サービス料550円とありました。これは旅行者の安全を確保するために行う、ハイジャック防止検査、手荷物検査や旅客ターミナルビルの保安維持などサービスの提供に充てるための料金です。9月から保安関係コスト増のため、550円から700円に値上がりしていました。

そして国際観光旅客税1,000円とありました。そのような税金があるとは知らず、調べたところ、観光先進国実現に向けた観光基盤の拡充・強化を図るための恒久的な財源を確保するための税金ということでした。出国1回につき、1,000円かかるということで、平成31年1月7日以後の出国に適用されています。

更に、航空保険特別料金4,500円とありました。2001年9月11日の米国同時多発テロ以降、大幅に値上がりした航空保険料を搭乗者である利用者に転嫁するために設定する特別料金です。料金は各

航空会社ごとに異なり一律ではありません。設定航空券を購入する際には航空券代とは別に支払う必要があります。

海外空港諸税・サービス料等ということで11,500円とありました。渡航先の国々によって、その国の法律などで、その国に滞在や経由したりする渡航者個人に対して支払いが義務付けられている税金です。例えば、出入国税・税関審査料・動物検疫料など。国内の空港と同様に海外の空港での利用で税金とサービス料がかかるということでした。

最後に今はおなじみになった燃油サーチャージ77,500円がありました。かつては、航空券代金に含まれていた飛行機の燃油費です。湾岸戦争の影響で世界的に原油価格が高騰した2000年代前半に、運賃だけでは燃油費が賄うことができなくなり、「燃油特別付加運賃」として別途加算される臨時措置がとられました。日本の航空会社の旅客便では2005年から導入がスタートし、一時的に廃止された時期もありましたが、現在は恒常化しています。「燃油特別付加運賃」は燃油価格の変動に応じて、各航空会社が目的地(利用区間)ごとに金額を設定します。利用する座席クラスや大人・小児に関係なく同額なので、安い航空券を買った人の方が割高に感じてしまうことも。1席に対して徴収される料金なので、座席を使用しない幼児(0~1歳)は対象外です。これらの費用のうち、日本の消費税がかかるのは国内空港施設利用料2,460円と国内空港旅客保安サービス料550円です。

以上から海外旅行にはたくさんのお金がかかりますが、安心・安全に旅行するには仕方がないと思います。空港のきれいな施設にはお金がかかっている、その分を負担していたことが分かりました。よく見ると旅行の広告にこれらの費用は小さい字で記載されていました。税金・諸費用は基本旅費の2割だったので、今後旅行費用の予算を考える目安にしたいです。